

※調査日 平成 28 年 5 月 16 日～6 月 3 日

2.9 「住みたいと思うまち」

【要点】

- ・約半数の市民が豊岡市での暮らしに価値や魅力を感じている。
- ・救急医療や周産期センターなどの医療環境に関する市民の満足度は高い。
- ・親の視点から見た子のUターンに関する障害は就職先であり、この不安を解消することでUターンの増加につながる可能性がある。
- ・市外出身の若者が増えることに関しての市民の抵抗感は低く、地域活性化のために若者の増加に期待を持っている。

豊岡で暮らすことに価値や魅力を感じていると回答した市民は、46.4%であった。反対に「感じない」との回答は22.0%であった【図49】。地域ごとの傾向を測るため、地域ごとに最集計したところ、「思う・とても思う」肯定派の割合が最も高いのは城崎（54%）であり唯一5割を超えていた。逆に「思わない・全く思わない」否定派の割合が高いのは、但東（28%）・日高（27%）であった【図50】。

図49：【問36】豊岡市で暮らすことに価値や魅力を感じるか？

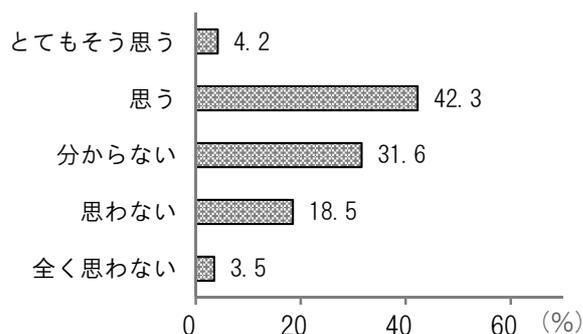
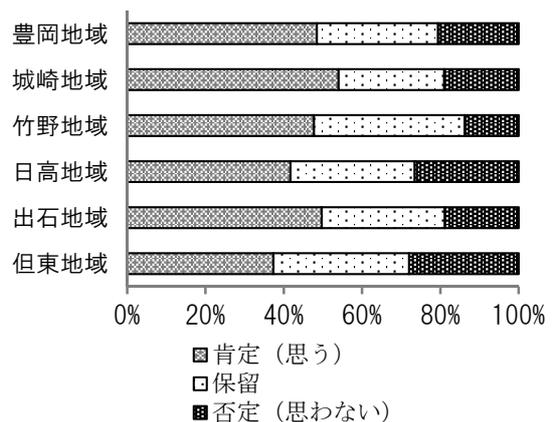
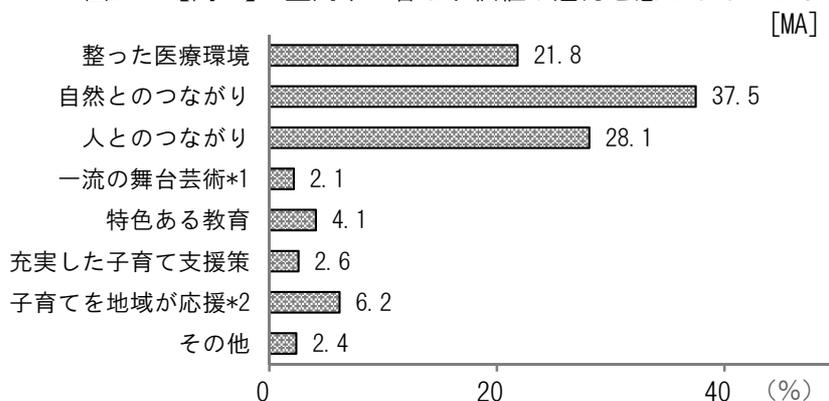


図50：【問36】豊岡市で暮らすことに価値や魅力を感じるか？〈地域別〉



【問36】で、豊岡で暮らすことに価値や魅力を感じていると回答した市民に、その魅力を尋ねたところ、「自然」が最も多く37.5%であった。続いて、「人とのつながり」、「整った医療環境」が多く、これら以外の項目を選択した市民は僅少であった【図51】。

図51：【問37】豊岡市で暮らす価値や魅力を感じるものは？



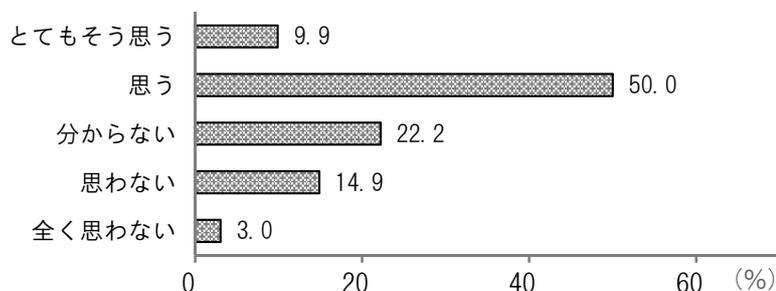
*1 一流の舞台芸術に触れる機会

*2 子育てを周りの人や地域が応援してくれる環境

※該当項目全て回答

「子どもたちに対し、将来帰ってきて欲しいか？」という設問に関し、59.9%が「帰ってきて欲しい」と回答した。逆に「思わない・全く思わない」は約17.9%であった。「思わない・全く思わない」と回答した市民のうち、その事由について、半数以上が「就職先」を挙げており、豊岡に子どもたちが帰ってくることに、「就職先」が大きな不安となっていることが分かった。

図52：【問38】子どもたちに将来帰ってきて欲しいか？



「市外出身者の若者増加」に関する市民の意識に関しては、77.6%から好意的な回答を得られた。逆に否定的な回答は6%と僅少であった。

【問38】と【問39】の間には、正に有意な相関があり ($r=0.27$, $p<0.01$)、一方が増加すればもう一方も増加する傾向がある。この結果と【問38】の附問で「若者がいないと地域に活気が出ないから」といった趣旨の回答が多くみられたことと合わせると、市民の少子高齢化に対する危機感は強く、市出身者・市外出身者を問わず、若者の増加に期待していることが伺える。

図53：【問39】人口減少対策として、市街出身の若者がふえることは良いと思うか？

